

会 議 録

会議の名称	平成23年度第3回行田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会
開催日時	平成23年12月14日(水) 開会；午後1時30分・閉会；午後3時30分
開催場所	行田市郷土博物館会議室
出席者(委員)氏名	小林康男 石岡克司 鹿山高彦 小堀 隆 根岸節子 関口富生 三村 誠 藤井尚子 木元千草 野中昭夫 相原香保留 内田愛三郎 加藤はつ江 西野栄子
欠席者(委員)氏名	根本和雄
事務局	岡田健康福祉部長 新井高齢者福祉課長 飯塚主幹 石川主幹 岡田主査 小巻主査 岡部主査
会議内容	(1)第2回策定委員会の検討事項等について (2)高齢者保健福祉事業について (3)その他
会議資料	(資料名・概要等) ・第2回策定委員会の検討事項等について 資料1 ・高齢者保健福祉事業について 資料2
その他必要事項	傍聴者なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これより「第3回行田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会」を開会する。</li> <li>・本日は委員14名の出席で、根本委員は欠席、根岸委員からは10分遅れるとの連絡をいただいている。</li> </ul>
委員長	<p>2 あいさつ</p> <p>委員長あいさつ</p>
司会	<p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、議事に入る。策定委員会要綱の規定に基づき委員長に会議の進行をお願いする。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題の1番目「第2回策定委員会の検討事項等について」事務局に説明を求める。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1に基づき説明する。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明に対しご質問、ご意見をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別養護老人ホームの入所希望待機者だが、何人くらいいるのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年の状況では、本市の待機者は345名である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターの区分割りが平成24年度からは4か所になるが、予算はどう変わるのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算が確定していない段階だが、現在の3地域包括支援センターにおける1地域包括支援センターあたりにかかる金額を確保できるよう予算要求をしている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・345名の待機者がいるとのことだが、今回の第5期計画では施設整備を見送るとのこと。理由として本市の介護保険料が県の平均を上回っているためと説明されている。しかし、第6期計画となると平成29年度までとなり、待機者の数は倍加するのではないだろうか。整備が後手後手にまわってしまうと利用したくともできない人の行き場がなくなってしまう。整備をしたとしても介護保険料の上昇が20%以下に抑えられるのならば第5期計画で整備すべきであろう。柔軟性をもった計画にしないといつまでたっても状況は改善されない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険料への影響を勘案したことが最大の要因であるが、第4期計画での本市の介護保険料は県内でも5番目であった。今期はできる限り低く抑えたい。アンケート調査結果でも、「保険料が高くても、サービスを充実してほしい」が14.5%、「サービスを抑えて、保険料を下げしてほしい」が13.9%、「現在のサービスで、現在の保険料がよい」が44.2%となっている。また、第1回目の委員会でお出しした資料には利用者・未利用者別のアンケート結果があり、サービス利用者の回答は「保険料が高くても、サービスを充実してほしい」が多く、サービス未利用者</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員	<p>の回答は「サービスを抑えて、保険料を下げしてほしい」が多くなっている。一番多い回答は「現在のサービスで、現在の保険料がよい」であった。こうしたことも踏まえて、施設整備の見送りを内部的に結論づけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス利用者が「サービスを充実してほしい」と考え、サービス未利用者が「サービスを抑えて、保険料を下げしてほしい」と考えるのは当然のことである。比較するレベルが違う。しかし、現在利用していない人でも将来利用するようになるかもしれない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険の対象者（第1号被保険者）のうち、サービスを利用している人は約13%、86～87%の方は介護保険を利用していない。そういった方々の意見も考慮することが必要と考える。</li> <li>・ 施設整備率は、行田市は県内でも高い方である。こうした理由もあって第5期では施設整備を見送るという選択肢をとりたい。</li> <li>・ 第5期は整備をしないが、施設整備の需要もあることも現実であるので、第6期の計画も見据え、P.2の文言をさらにもう一歩進めた形の表記にすることも考えられる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートの取り方に問題がある。質問形式が漠然としている。「いくらくらい上げたらどうであるか」というように具体的な条件を提示した質問形式にすればよかった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回実施するときの参考といたしたい。今回の調査では各サービスに特化した形式にしていなかった。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4期計画時の介護保険料は、本市は県内の市の中では5番目の高さとのことだが、何か理由があるのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の整備率や高齢化率等と介護保険料の関係性を探ったが、明確な相関関係ははっきりとわからなかった。施設数の影響はあるかもしれないが、県で統括した資料がないこともあり、因果関係は今のところ明確にはなっていない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉県内市町村の中でも高い所は5,000円を超えているが、概ね3,000円台の所が多い。また、4,000円前後の所も金額にあまり差はない。それよりも施設整備率1.94%の行田市よりも、整備率2.24%の鴻巣市の方が介護保険料は350円も安い。施設の整備についてを保険料で見るとはいかにも行政的な考え方である。待機者の実態などで見るとはいいのではないだろうか。しかし、整備に関するビジョンがなければ、ここでいくら検討しても仕方ないことである。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市の保険料は今期4,020円。埼玉県内市の中で最も高いのは秩父市の4,120円だが、2位～5位までは10円単位の差しかない。しかし、本市では前期3,340円から今期の保険料は680円も上がっている。またさらに上がるとなると負担が大きい。</li> <li>・ 今回介護報酬の地域区分の見直しがあったことから、2段階上</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員	<p>がった。すなわち何もしなくても機械的に上がる部分が 2.4%あるということである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただし6年間このままでいいのかというと、そこも課題である。「第5期の計画はこうだが、第6期ではこう」というように少し踏み込んだ文章にさせていただきたい。</li> <li>・あくまでも第5期の整備方針はこれまで述べた通りだが、実際には計画段階から実現までにタイムラグがある。県とも事前協議を行うが、県は第6期のことも見込んでおきたいという思惑を持っている。たとえば、第5期中に県や市ともオーソライズすれば平成29年度ではなく、平成28年度にオープンする可能性もある。第6期でもやり方を工夫すれば充分検討できる。</li> <li>・今のお話で柔軟に対応していることがわかり、安心した。施設に申し込む時はすぐ使いたいという人もいれば、すぐには必要ではないけれどとりあえず申し込んでおくという人もいる。以前、さいたま市、鴻巣市、行田市の3市の実態を調べた時、比較すると行田市にはショートステイのベッド数が多いことがわかった。都内では抽選という所もある中、行田市ではショートステイを避難所的に使える状況にあり、柔軟な対応をしている。</li> <li>・国では要介護度4、5の人を優先的に特別養護老人ホームに入所させる方針であるが、全体からみると実際にはそのように要介護度が高い人は少ない。要介護度1や2のような軽度の方をどう手厚く保護するか、すぐに相談できるような使い勝手のいい制度の整備、多少の幅をもたせたシステムの整備をさせていただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変貴重なご意見をいただいた。参考と致したい。</li> <li>・国では「入所者の7割以上を要介護度4、5の利用者に」という方針を示している。しかし他市を含め入居者の状況をみると、古くからある施設は介護度の重い人の割合が多いが、新しく整備された施設では介護度が低い利用者が多いという傾向がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護療養型医療施設からの転換が進んでいないとあるが、その理由と対策はどのようなことがあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6～7年前までは壮幸会で介護療養型医療施設をやっていたが、現在では廃止しているので市内における当該施設はない。そうしたことから詳細についてはわからないが、おそらく経費のこと等でうまくいかないことも少なくないと思われる。病院との考え方のミスマッチもあるであろう。</li> <li>・病院と介護施設ではハードも違うし、ソフト面では人材についての課題もある。報酬体系上も色々あって、医療法人も横を眺めながらなので、なかなか転換が進まない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇委員のおっしゃるように、要介護度4、5といった重度の方は特別養護老人ホームが受け皿になると思われるが、要介護</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員	<p>度1～3の方に対する在宅サービスをいかに充実させるかということが必要である。要介護度2、3の方でも家庭で介護できないとなると施設に入所することが多い。しかしながら、今後施設入所できるのは要介護度4、5の方のみとなったとすると、軽度の方はどこへ行けばいいのだろうか。高額所得者の方にはいい施設もあろうが、年金暮らしの方はどうしたらよいか。そういう方が安心して暮らせる制度が必要と思われる。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽度の方や要支援の方はなかなか施設に入所できない。そういった方の受け皿としては特定施設がある。特定施設の整備は東海地方、近畿地方、九州地方では進んでいるが、関東地方ではあまり進んでいない。有料老人ホームについては進んでいるが、今後はそこが重要になってくると思われる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>皆さんから貴重なご意見を賜った。それでは、P.2の下部にあるよう、検討していただきたい。</li> <li>議題(1)についてのご意見は以上でよろしいだろうか。ほかになれば先に進みたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>議題の2番目「高齢者保健福祉事業について」事務局に説明を求める。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2に基づき説明する。</li> <li>ご質問、ご意見があればうかがいたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>P.19に、ねたきり、認知症の方が減少したというデータがあるが、何か施策があったために減少に結びついたのでだろうか。</li> <li>データの数値は在宅の方の数なので、在宅以外の施設への入所が増えたということだろう。また、認知症については、平成21年にグループホームが整備されたため、そちらに認知症の方が入られて在宅の認知症の方が減少したということが考えられる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の原因としては、脳梗塞等の脳疾患、ねたきり、骨折等があげられる。たとえば食事を変える等の取り組みを進めることでねたきり解消につなげるなどのことがあっていいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>P.28～29のワクチンやインフルエンザ予防接種助成は、高齢者自身が自分でいくら負担していいかわからないからこの実績だとも思える。助成金の金額アップを検討した方がいいのではないだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>助成をしている自治体の数は県内でも半分に満たない。本市でも平成22年度から開始したばかりである。国・県の補助がない中、3割の助成として始めた。もう少し様子を見させていただきたい。接種は1回を想定しているが、時間がたつと効果が薄れることも見込まれるので10年くらいたったらもう1回やった方がいいとも考えられる。</li> </ul>
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>P.4の老人福祉センターは、ゆくゆくは廃止になるのだろうか。</li> <li>行田市には施設検討委員会があり、永寿荘、南河原荘の検討を</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員	<p>していただいた。その結果、施設が老朽化していることと同じような施設がほかにもあるという理由から、南河原荘については老人福祉センターとしては「廃止」とし、施設を有効活用できるようであればする、という提言を受けた。それを受けての記述である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は増加しているのに、やすらぎの里や公民館などの利用は35%の参加率にとどまっている。保健センターでも保健協力が一生懸命活動しても効果が上がらない。こうしたことの原因としては高齢者の考え方が変わってきているからではないかと考えられる。施設そのもののあり方を今の高齢者のニーズに応えた運営にしていく必要がある。自分も「今年から敬老会にご招待しますよ」と誘ったら、「えっ、もうそんな年。入りたくない」と断られた経験を持つ。高齢者自身の気持ちも勘案して対策を考えた方がいい。どういった対策を考えたらよいだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昔前の高齢者と、これから高齢者になるかなったばかりの方とでは意識に差がある。色々なご意見を持っている方が増えている。従前の形でのサービス提供は難しく、時代にそぐわなくなっている。非常に難しい問題であるが、いただいたご意見を参考として取り組んでいきたい。</li> <li>・なお、第5期計画に新しい提案は特にないが、老人福祉センターの廃止や住宅改修事業の見直しなどは考えている。また、新たなサービスということでは、「いきいき・元気サポート制度」を2年前に開始した。元気な高齢者が助けを求める高齢者を支援する制度を作った。ばら撒きのようなサービスは今後縮小傾向となり、本当に必要とする方にサービスを提供できるような方向になっていくと見込まれる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスを受ける側からも考えることが必要である。高齢者自身が生きがいを感じ、自主的にやっていくことが必要である。私も「いきいき・元気サポーター」の講習を受けている。そうすると気力が出てくる。これからは、いかにして高齢者に意識付けをできるかということが必要と思われる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長年、老人会の会長として活動してきた。会員の勧誘をしていると、意識の違う高齢者に出会うこともある。65歳になっても、80歳になっても「私は老人じゃないよ」と言う人もいる。</li> <li>・市では高齢者対策をしっかりとやっているが、高齢者自身でもそのことについて知っている人が少ないと思う。老人会でも一生懸命取り組んではいるのだが。これからは老人クラブも増えてくると思われる。今後とも高齢者の方の気を引いてもらえるように頑張っていきたいと思う、どうか皆さんにも御協力をお願いしたい。</li> <li>・「いきいきサロン」は私のところでも約6年間やってきた。熱心</li> </ul>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員長	<p>に取り組んでくれる人がいないとなかなか難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。様々なサービスもPRが必要ではないだろうか、というご意見を賜った。色々なご意見をいただいたが、今後ともさらに検討していただきたい。</li> <li>・ほかにご意見がなければ、次の議題に移りたい。</li> </ul>
委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から何か連絡事項等はあるだろうか。</li> <li>・第4回目の委員会日程は1月25日前後になる予定である。後日詳細についてお知らせしたい。</li> <li>・前回の第2回にあたる委員会では「介護保険事業計画」について、今回の第3回委員会では「高齢者保健福祉事業」についてご討議いただいた。次回は併せてご討議いただくことになる。資料については、それぞれの担当が作成しているので、表現が統一されていない部分があるが、後ほど訂正させていただくことをご了承願いたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間にわたって検討いただき、ありがとうございました。本日予定されていた議題をすべて終了したので、これをもって議長の職を解かせていただき、事務局にお返ししたい。</li> </ul>
司会 副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは閉会の言葉を副委員長にお願いしたい。</li> <li>・今年の漢字は「絆」と発表された。これが一番大事なことである。世の中も変わり、高齢者社会も変わる。そのような中でも皆が安心して快適に生活できる社会環境が必要である。「人生二度なし」ということなので、すばらしい人生を送れるよう考えていきたい。本日はすばらしい第3回策定委員会となった。ありがとうございます。年の暮れとなったが、元気にお正月をお迎え下さい。</li> </ul>
司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上をもって策定委員会を終了する。</li> </ul>